



近畿病院図書室協議会共同リポジトリ “KINTORE”： 構築から公開へ

増田 徹

I. 近畿病院図書室協議会共同リポジトリ KINTORE 概略

近畿病院図書室協議会（以下、当協議会）で取り組んでいる共同リポジトリ「KINTORE」を2016年1月公開したので、ここに報告する。開設当時の加盟機関は114機関で、概要は以下のとおり（図1、表1）。愛称を「KINTORE」とした。



図1 ロゴマーク

表1 KINTORE の概要

正式名称	近畿病院図書室協議会共同リポジトリ
システム	Dspace SaaS 版
参加方法	所属施設の承認のうえ申請
参加要件	病図協会員機関
参加費	無料
公開時期	2016年1月

各機関でリポジトリを行うと経費が大変だが、共有すると安くて済む。協議会にふさわしい共同リポジトリという形で行っている。

リポジトリの構築は、学術情報のオープンアクセス化に寄与し、灰色化しがちな病院紀要という存在を、情報の流通にのせることができるなど、病院図書館として意義のあることと考えている。

II. KINTORE 構築の選択肢を探る

リポジトリについて、最初は JAIRO への参加も考えた。

当協議会の研修会で講師をお願いした NII の方に、病院図書館が加盟できるかどうかお尋ねしたら、難しいとのことであった。日本赤十字病院が JAIRO に参加していることも知ったが、状況的にうまくいった面もあり、リポジトリをするなら、自分たちで構築しないといけないだろうということになった。そうすると費用が課題となる。初期費用としてシステム構築に56万円かかった。リポジトリ保守費が43万円で、これは今後毎年かかる。その他にかかった費用で、「研修会開催費用」がある（表2）。

表2 リポジトリ費用（円）

システム構築費用	562,032
リポジトリ保守費	285,842
会員への広報資料	75,650
「病院図書館」リポジトリ登録費用	703,765
リポジトリ部会	78,792
その他	24,844

III. KINTORE の運用にあたり“筋トレ”（研修会）を実施する

共同リポジトリを行うには、個々の会員機関に自分たちで運用していただく必要があるため、研修活動が不可欠となる。病図協ホームページの KINTORE 実務者ページに「運用指針」を載せていて、その中に「病図協は、リポジトリに登録された成果を利用することまたは利用できなかったことにより発生した登録者又は著作権

者の損害について、一切の責任を負わないものとする」という一文を入れた。入れ物は貸すが、自分たちがアップした中身については責任を取って下さいというスタンスである。2014年以降、何度も研修会を行い、メーリングリストを開設して情報のやりとりをした。また会誌で特集を組んだり、当協議会サイトに専用ページを設け、新任者研修でも KINTORE を紹介した(表3、4)。

第134回研修会	「オープンソースの図書データベースシステム Next-L Enju について」 独立行政法人物質・材料研究機構 田邊浩介氏
	「リポジトリの登録作業 (メタデータの記述)」 株式会社アグレックス 河原香代子氏
	「資料の電子化 (スキャン、OCR)」 関西福祉大学 西本朱美氏
	「リポジトリにまつわる著作権」 大阪大学附属図書館 前田信治氏
参加者：23名 (講師含まず)	

表3 開設に向けた研修活動

2014年1月	第132回研修会事前ワークショップ (メーリングリスト) を開始
2014年2月	第132回研修会 「病院図書室における機関リポジトリの可能性」
2014年7月	会員の現状・意向調査アンケート実施
2014年9月	第134回研修会 「病院図書館の機能向上：図書館システムとリポジトリ」
2015年3月	会誌特集「機関リポジトリ：病院図書館でもできるのか？」および用語解説
2015年4月	会員サイト「近図雲」で情報発信開始
2015年6月	HPにリポジトリ事業ページを作成
2015年9月	第40回勉強会 (新任者研修) 「共同リポジトリ KINTORE のご紹介」
2015年9月	リポジトリ実務研修会 (大阪) 参加者23名 岡山・名古屋は参加希望者なし
2016年7月	第42回勉強会 (新任者研修) 「共同リポジトリ KINTORE のご紹介」

表4 研修会の内容

第132回研修会	「機関リポジトリをする意味」 大阪大学附属図書館 前田信治氏
	「機関リポジトリの開設と維持運営について — 関西福祉大学リポジトリの事例 —」 関西福祉大学図書館 西本朱美氏
	「医学情報とリポジトリ」 奈良県立医科大学附属図書館 和田 崇氏
	「導入 & ランニングコスト」 株式会社アグレックス 福田典雅氏
	パネルディスカッション 「病院図書室における機関リポジトリの可能性」 前田信治氏、西本朱美氏 和田 崇氏、福田典雅氏 参加者：24名 (講師含まず)

IV. 病院図書館がリポジトリを推進する際に危惧される問題点

病院図書館がリポジトリを推進していく上で、いくつかの問題点が危惧された。

- ・ 紀要の発行・公開は、病院では制度上・道義上の義務ではない。
- ・ 病院図書館員の雇用形態が派遣やパートに移ってきており、中心となるべき図書館員のモチベーションや資質の点で低下してもやむを得ない状況である。
- ・ 身分的に、トップや他部署との調整が難しく、新しいものを導入して推進していく力になりにくい。

病院図書館で果たしてリポジトリができるのか。病院図書館の特徴として、一人職場が多く、非正規職員や兼務が多い。なかでも私が病院図書館に特徴的だと考えているのは、制度による後押しが少ないことであった。大学には文部科学省があって、設置基準や認証評価などで、図書館のレベルを維持したり、新しい仕組みの導入を促進する。実際に大学ではラーニングコモンズや機関リポジトリが瞬く間に広まった。病院にも機能評価や、地域医療支援病院など特別な病院の資格を得るために図書館のレベルを指示する制度はあるが、その拘束力は強いとはいえない。リポジトリについては、病院図書館では、図書館員自身が独力でやらなければならない。上層部や周囲に説明して理解を得、紀要の投稿規程改訂、著作権の処理、資料のPDF化、メタデータの作成、それらをこれまでの業

務に加える形で図書館員が一人でやるか、周囲を説き伏せて業務を分担してもらうかをする必要がある。これは上層部の判断を待つまでもなく、図書館員自身がリポジトリをやらないと決めてもおかしくないと考えた。

KINTORE 導入前後の 2012 年および導入後の 2016 年の 2 回、会員を対象として実施したアンケート結果をもとに、これらの問題点を 2 つの視点から考えたい。

1. 雇用状況について

2012 年に当協議会会員を対象にとったりポジトリに関するアンケートでは、紀要を発行している機関で、発行している紀要の電子化が実現できるだろうと思うのは正規職員で、実現できないと思うのは非正規職員だと出ていた (図 2)。実際の KINTORE に参加した機関数は以下のとおりである (表 5)。

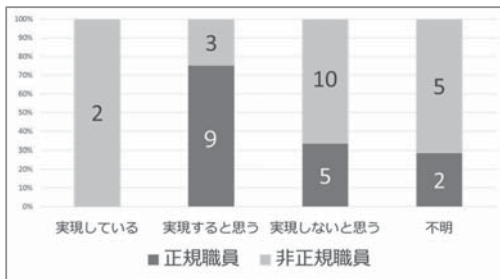


図 2 電子化実現の可否 雇用形態別 (2012 年のアンケート)

表 5 KINTORE 参加機関

参加機関	14 機関
KINTORE への機関名登録機関	11 機関
コンテンツ登録機関	3 機関
登録雑誌タイトル数	3 タイトル

結果は 14 機関が、施設の了解をとりつけ、2016 年 6 月現在 3 機関が実際にコンテンツを登録している。掲載雑誌も 3 タイトルである。

KINTORE 公開後の、2016 年 5~6 月に再度リポジトリに関するアンケートを行った。設問を KINTORE 参加機関と未参加機関に分けた。回答は 82 機関からあり、KINTORE 参加機関は 14 機関中 11 機関から回答があった。また

KINTORE 未参加機関からは 71 機関から回答があった。雇用形態別に見てみると、非正規職員が担当する病院図書館員がけっこう KINTORE に参加している (図 3)。

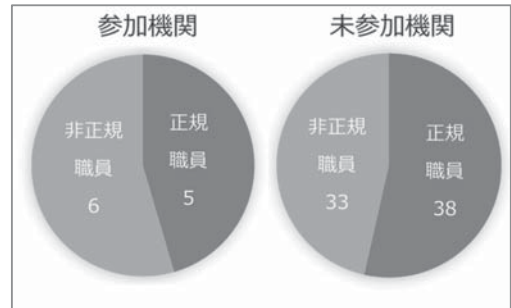


図 3 図書館員の雇用形態

原因として思い当たるのは、経験年数である。職員の経験年数を 3 年で区切って見ると、KINTORE 参加機関の正規職員は 40% が 3 年未満であるが、非正規職員は 16% である。KINTORE 未参加機関でも、正規職員の 37% が 3 年未満で、非正規職員は 19% である。正規職

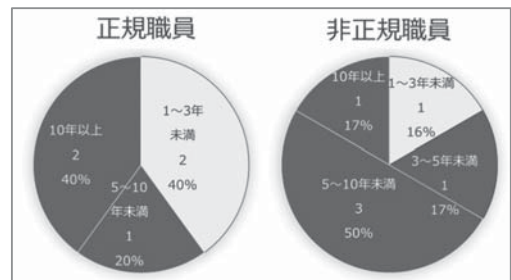


図 4 参加機関職員の経験年数

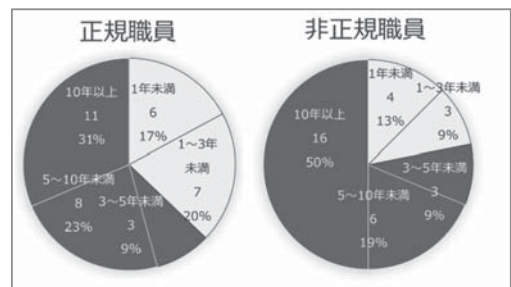


図 5 未参加機関職員の経験年数

員は異動により、図書館にいる期間が短い傾向があり、図書館への正規職員の配置は、専門職としての図書館員を想定していないということが言えるのかもしれない。正規職員、非正規職員という雇用形態自体は、案外ポジトリという事業への参加を左右する要因になっていない(図4、5)。

2. 紀要発行の有無について

次に、KINTORE 参加機関における、紀要発行の有無を見てみると、紀要を発行していないところも4機関がKINTOREに参加している。紀要を発行していない機関は、紀要以外の病院職員の業績をアップすることになり、5機関が、機関に所属する職員の個々の論文をアップしようとしている(図6、7)。

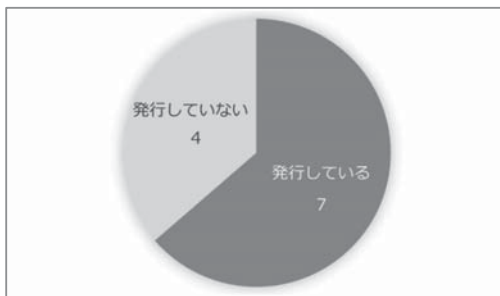


図6 紀要発行の有無(参加施設)

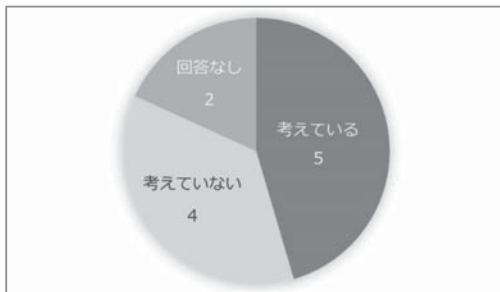


図7 紀要以外の病院職員業績のアップ(参加機関)

しかし、KINTORE 参加後の不安を尋ねてみると、その紀要以外の「掲載論文の収集」に不安を感じているところが多い。具体的には「業績として何を載せたらよいのか」「成果物が集まるか」「その道筋がつけられるか」などである。「後任への引継ぎ」も2件あるが、KINTORE 参

加後2機関の担当者が代わっている。どちらも正規職員であるが、1名は自己都合の退職であった(図8)。

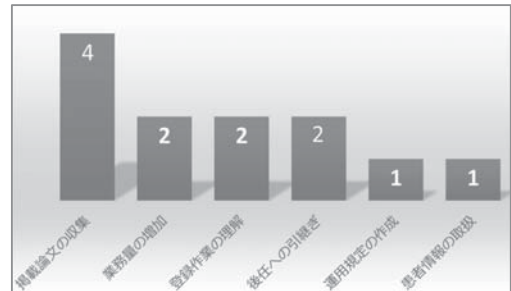


図8 KINTORE 参加後の不安(参加機関)

KINTORE 未参加機関に今後の参加を尋ねると、71機関中、21機関が参加を考えていた。そのKINTORE 未参加機関に紀要発行の有無を尋ねると、71機関中同数の21機関が発行していた(図9、10)。

KINTORE 未参加機関のうち、今後もKINTOREに参加しないと答えた機関に理由を尋ねると、紀要を発行していないことを理由に

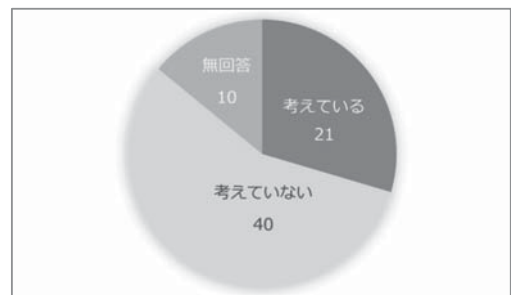


図9 今後のKINTORE参加の意志(未参加機関)

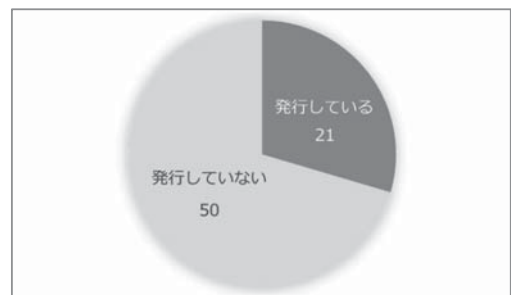


図10 紀要発行の有無(未参加機関)

挙げている施設が16施設ある。体制上の問題とは「経費削減と経営改善につながらないあらゆる事案が省みられない」「上司より積極的な行動を良しとしない旨、言われているため」などがあつた。正規職員でないためできないとしたことは「KINTOREへの参加」「紀要以外の業績のアップ」「紀要の規程改訂」が各1名「共同リポジトリ参加に動く」が2名であつた(図11)。

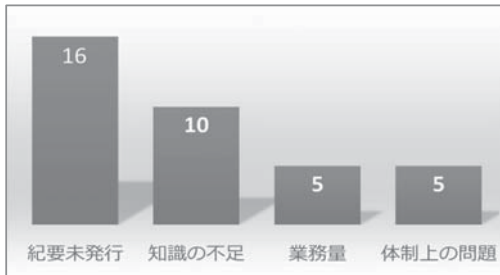


図11 今後も参加しない理由(未参加機関)

しかし紀要発行の有無と、今後のKINTOREへの参加の意志を重ね合わせると、紀要を発行している21機関中、12機関が参加を考慮せず、紀要を発行していない50機関中12機関が参加を考慮している。内訳は分散していて、紀要の発行の有無も必ずしもリポジトリ参加の決定要因にはならないと考えてよいのであろうか(図12)。

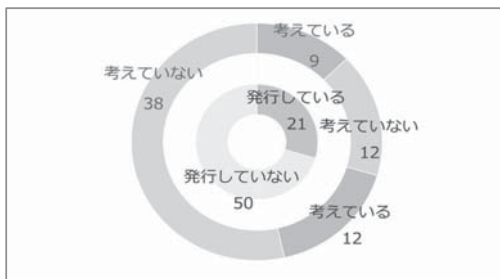


図12 紀要発行の有無と今後のKINTORE参加の意志

V. KINTORE ダウンロード件数

最後にKINTOREにアップしている資料のダウンロード数を見ようと思う。病院紀要が3タ

イトルアップされていると先に示したが、タイトルと巻数、アップしているアイテム数は以下のとおりである(表6)。病院紀要以外に病図協の会誌「病院図書館」もアップしている。

KINTORE公開後の月別ダウンロード数と2016年6月文献ダウンロード数のTOP10である(図13、表7)。

表6 KINTORE登録資料と巻号、登録アイテム数

三菱京都病院医学総合雑誌	21-22巻	106アイテム
洛和会病院医学雑誌	21-26巻	
八尾市立病院年報	22-27号	902アイテム
会誌「病院図書館」	20-34巻	

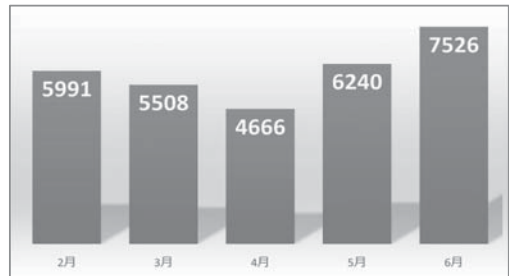


図13 KINTORE公開後月別ダウンロード回数

表7 2016年6月文献ダウンロード数TOP10

高齢者終末期医療と同意書	272
帯状疱疹の加療中に急性腎不全、アシクロビル脳症を発症した1例	205
当院で経験した過粘稠性Klebsiella pneumoniaeによる侵襲性肝膿瘍症候群の2例	167
看護研究の研究デザイン(特集とことん看護研究)	155
いますぐ役立つホームページ14:標準看護計画	125
高齢者終末期ケアプラン	124
初発症状が両側難聴であったANCA関連血管炎症候群	116
インターネット時代の医学・医療情報とライブラリアンの役割(講演)	88
パクロフェン持続髄腔内投与療法	88
アルツハイマー型認知症の治療薬について	88

(グレー部分は会誌「病院図書館」のアイテム)

2016年6月文献ダウンロード数のTOP10を見ると、病院紀要の論文が登録アイテム数はごく少ないにもかかわらず、圧倒的に上位に来ている。これらはリポジトリにアップしなければ、絶対にこれだけの人の目に留まらなかったはず

で、この数字を見て初めて、想像以上に論文がダウンロードされていることを実感した。リポジトリ参加に、正規・非正規の雇用形態や紀要発行の有無が、決定的な要因にならないのであれば、私たち病院図書館の協議会に、努力の余地があるのではないかと考える。リポジトリというのは、学術情報の流通においてとても意味のあることであり、またそれを図書館員が扱うことで、施設だけでなく社会において図書館の

認知度も上がっていくはずである。地道に研修を続けていき、会員がリポジトリに感じている不安を取り除き、またリポジトリを知らない会員にその存在と意義を知らせていこうと思っている。

※この原稿は2016年7月に長崎で行われた医学情報サービス研究大会での発表を元になっている。